

一般質問

佐渡市の 少子化対策について



本間武雄 議員

質問

わが国の出生率は1973年以降、減少傾向に歯止めがかからず2003年には1・29となった。佐渡市にとっても少子高齢化は、市の経済活性化に深刻、且つ多大な影響を与えその対策は急務である。少子化対策は今すぐ取り組むものと、中長期的に取り組むものとを明らかにして、着実に推進することが肝要である。

組むことが効果的と考えるが、市長はこのような「超党派」で少子化対策に取り組む考えがないかを問う。

市長

佐渡市の出生率は、つい最近まで1・80であったが、昨年は1・58まで減少してしまった。佐渡市としても、少子化の流れを変えるために、就学前児童の医療費無料化や学童保育支援等のさまざまな施策を行ってきたが、少子化傾向に歯止めがかからない。「超党派」でするかは別として、少子化対策問題は真剣に取り組む必要があると考えている。

行政内に「子ども支援課」という専門家集団を設置して、単に福祉行政だけでなく、保健・医療・労働・住宅・商工観光・産業・経済などの広範な行政分野と連携をして取り

農作物被害防止とトキ放鳥に向けてのムジナ対策について

質問

ムジナは、近年人里に出没して、農作物への被害等があちこちらで多発している。有害獣としてのムジナ

の駆除は、佐渡の他の野生動物との共生やトキの野生復帰を成功させるためにも必要と考えるが、市長の見解を問う。

市長

ムジナは人家周辺に天敵がいなく、食物等が豊富なたためか、近年増える傾向にある。佐渡の野性動物の生態系の中で、どうしてもバランスがとれない場合は、一定の範囲内で駆除も必要と考えている。現在一部旧市町村から引き継いで、駆除を行っている地域もある。



鶏小屋を狙うタヌキ一家？

造成公有地の利用計画について

質問

羽茂港5・5haの造成公有地埋め立て工事は、平成14年に完成したが、旧羽茂町議会では、佐渡市誕生後に南部や佐渡市全体にとって必要なものを建設する時に利用するというところで、新市に引き継がれた。今後の市の総合計画や生涯学習関連施設建設等検討委員会の答申等から大所高所に検討し、南部地区の体育館建設やマリンスポーツ振興等の計画を実施すべきであるが。

市長

羽茂港の埋め立て地は、当初は海洋スポーツの基地という計画ではあったが、現在具体的な利用計画はない。跡地の利用については、南部地区のバランスの中で海洋センター等、マリンスポーツの今後の動向等を見て検討すべきと考えている。